

2006/1/17

## 新潟水俣病・安田患者の会と私

事務局・旗野秀人

1971年、川本輝夫さん(水俣市・故人)と偶然チッソ本社前で出会い水俣病事件にかかわることになった。そして、地元で家業の建築業に携わりながら事務局員とは名ばかりの使い走りを経て35年目になる。今、私の周辺では小さなことだが、あの頃の学生が教員になって再び学生を伴って来てくれることや結婚後も家族ぐるみで親戚のように縁を深くする人、孫のような若い世代がまったく新しい切り口で取り組んでくれる姿など、何よりも嬉しいことが展開している。

最初、私は認定患者の聞き取りから入った。間もなく棄却患者と出会い、川本さんの行政不服の真似ごとをすることになる。千唐仁集落(旧安田町)の船頭さんとは村ぐるみの潜在患者発掘運動(地元で集団検診を実現させる会)を起こし認定申請するが、全員棄却となった。行政不服の運動を10年ほど続けて第二次訴訟原告団に加わり、新潟水俣病被害者の会安田支部となるが、独自の運動も平行して継続する。

負け続けた行政不服10年の運動から患者さんの生き様や人間的な魅力に気づいた頃、佐藤真監督との出会いもあって映画「阿賀に生きる」の製作へ繋がる。出演してくれた患者さんが完成の翌年に次々と亡くなるものだから「阿賀に生きるファン倶楽部」を主宰し、追悼集会をはじめた。今では恒例行事となって5月4日は毎年100人ほどのファンが全国から駆けつけてくれる不思議な現象が続いて13年が経つ。

水俣病問題は文化運動であるべきと自覚し、映像、絵画、写真、書、芝居、文集、音楽など新潟独自の表現スタイルを模索し、ゆるやかなネットワークづくりを目指す。

98年の「阿賀のお地蔵さん」建立祝賀会は村の集会所が無料となって患者の会がはじめて市民権を得た。追悼集会は会場貸し出しを渋っていた町当局が、2000年には町制40周年記念町おこし助成事業として認め、町長は祝儀を持って駆けつける。

和解以後、はじめて患者の会は忘年会(懇親会)を温泉宿で計画し、安田町水俣病未認定患者の会の「未」を一文字とって名乗り、思いっきり歌って踊って温泉に浸かった。

同時に「冥土のみやげ企画」を名乗りはじめ、患者の会の民謡歌手渡辺参治さんの米寿記念に民謡CDアルバムの製作や「阿賀に生きる」の上映、講演会を「冥土のみやげツアー」と称しては全国に「親戚」をつかって歩くような楽しい企画を心がける。

30年前には100人余りいた患者の会も今回の忘年会に参加できたのは僅かに8人で、会長の権瓶晴雄さんも若手(75歳)なのだが体調を崩し欠席。残された時間は僅かだが、患者さんが喜んでくれて自慢できるような仕掛けを今後も続けたい。すでに縁のある米国の船大工ダグラス・ブルックスさんとの阿賀の川舟づくり(再生)や絵本「阿賀のお地蔵さん」の発行、そして紙芝居にして全国行脚する。まさに阿賀に生きる(生きた)人たちの豊かな生き様と誇りを語り伝える「冥土のみやげ」づくりである。

#### 新潟水俣病安田患者の会・略年表 (旗野作成)

- 1971 (昭和46年) 川本輝夫さんとチッソ本社前で出会いハNST支援参加
- 1972 (昭和47年) 中上流地域(安田町)から初の行政認定患者(聞き取りを始める)
- 1973 (昭和48年) 第三水俣病、関川水俣病公表、いずれも否定。棄却患者増加安田町の行政不服患者と出会う。
- 1974 (昭和49年) 安田町で潜在患者発掘活動を開始、ボランティアで事務局を担う。
- 1975 (昭和50年) 行政不服審査請求患者の代理人となる。
- 1976 (昭和51年) 「地元で集団検診を実現させる会」結成(安田町)初の町長交渉など
- 1977 (昭和52年) 斉藤恒医師(木戸病院)に行政不服審査請求患者の補佐人を依頼
- 1978 (昭和53年) 新潟県安全宣言。新潟で初の公害健康被害補償不服審査会の口頭審理が開催される(安田町の棄却患者4人)
- 1979 (昭和54年) 新潟で初の不服審査請求で差し戻し裁決(安田町患者の会Sさん)
- 1982 (昭和57年) 第二次訴訟提訴。県下初の逆転認定裁決(安田町患者の会Nさん)
- 1983 (昭和58年) 佐藤真監督と出会う、阿賀の映画づくりを打診
- 1985 (昭和60年) 新潟水俣病20年「後藤正明・新潟水俣病写真展」開催(新潟市)
- 1988 (昭和63年) 「阿賀の家」オープン。映画「阿賀に生きる」クランクイン
- 1991 (平成3年) 「阿賀に生きる」クランクアップ

- 1992 (平成 4年) 「阿賀に生きる」完成、全国上映 第二次訴訟判決、控訴
- 1993 (平成 5年) ・加藤作二、キソさん夫妻、市川栄作さんら死去  
・第1回追悼集会、ゲスト佐藤真監督他
- 1994 (平成 6年) ・第2回追悼集会、ゲスト田島征三氏(絵本作家)他  
・川本輝夫さんの依頼で阿賀の石で水俣へお地蔵さんを送る。  
・地元で初の公害授業(安田町立大和小学校)
- 1995 (平成 7年) ・第3回追悼集会、ゲスト芥川仁氏(写真家)他  
・新潟水俣病30年「それぞれの阿賀展」開催(県民会館)  
・昭和電工と解決協定調印  
・安田町患者の会初の慰労会(咲花温泉)  
・「冥土のみやげ企画」を名乗り始める。
- 1996 (平成 8年) ・第4回追悼集会、ゲスト大熊孝氏(河川工学・新潟大学教授)他  
・「それぞれの阿賀流域展」10ヶ市町村  
・水俣東京展  
・二次訴訟和解
- 1997 (平成 9年) 第5回追悼集会、ゲスト赤羽正春氏(川船研究家)遠藤武さん死去
- 1998 (平成10年) ・第6回追悼集会 ゲスト杉みき子氏(児童文学作家)  
・鈴木勇さん死去  
・「冥土のみやげ地蔵さん石探し水俣ツアー」  
・阿賀のお地蔵さん建立、開眼法要(集会所使用料はじめて無料に)
- 1999 (平成11年) ・第7回追悼集会、ゲスト内山節氏(哲学者)  
・「冥土のみやげツアー」帯広畜産大学、和琴小学校、山形高畠町  
・川本輝夫さん、長谷川芳男さん死去
- 2000 (平成12年) ・第8回追悼集会、安田町町制40周年記念町おこし助成事業となる  
ゲスト嘉田由紀子氏(京都精華大学教授)  
・南熊三郎さん死去
- 2001 (平成13年) ・第9回追悼集会、ゲスト 坂原辰男氏(田中正造大学)  
・県立「環境と人間のふれあい館」開館  
・「冥土のみやげツアー」帯広畜産大、札幌翼クラブ、大阪電通大

- 2002 (平成14年)・第10回追悼集会、ゲスト大熊孝氏(新潟大学教授)
- ・「阿賀に生きる」10周年記念祭
  - ・映画「阿賀の記憶」ロケハン
  - ・「冥土のみやげツアー」大阪、神戸、栃木
  - ・全労済の助成で冊子「阿賀のお地蔵さん、ビデオ作品「阿賀野川、昔も今も宝もん」を製作
- 2003 (平成15年)・第11回追悼集会、ゲスト松村幸子氏(地域看護学・新潟青陵大教授)
- ・市川徳太郎さん死去
  - ・ダグラス・ブルックス氏(米国の船大工)来町
  - ・参治さん米寿記念CD「うたは百薬の長」製作 NHKラジオ全国放送で紹介
  - ・映画「阿賀の記憶」撮影開始
  - ・「冥土のみやげツアー」栃木(田中正造大学)大阪、盛岡
  - ・ビデオ作品「ともちゃんとキミさんの夏休み」製作
- 2004 (平成16年)・第12回追悼集会、「阿賀の記憶」完成、ゲスト佐藤真監督
- ・「表政治(常呂町)写真展」
  - ・聞き書き「安田の唄の参ちゃん」(里村 洋子著)
  - ・「冥土のみやげツアー」沖縄、相模原、大阪、神戸、東京、北海道
  - ・ビデオ作品「冥土のみやげ北海道ツアー」製作
- 2005 (平成17年)・第13回追悼集会、新潟水俣病40年特別講演「患者と共に40年」(齊藤恒木戸病院名誉院長)参治さん卒寿記念コンサート、ゲスト・全国参治さんファン倶楽部、「ほっとはうす」御一行ほか
- ・絵本「阿賀のお地蔵さん」をつくる会結成
  - ・新潟絵屋原画展開催
  - ・新潟県主催40年記念事業(企画制作・冥土のみやげ企画)
  - ・専立寺(盛岡)落慶法要ライブコンサート
  - ・ビデオ作品「ミキさん88歳・冬のある日」製作
  - ・「阿賀ルネサンスから新たな社会運動を考える」上映&トーク(大阪市立大学院)
  - ・川崎ともえ写真記録展(枚方市星が丘)
  - ・「冥土のみやげツアー」盛岡、大阪、神戸、東京、水俣
  - ・五十嵐キヨノさん死去(行年94歳) 中川トメさん死去(行年96歳)